

2012・夏休みすいせん図書

— 本の森へ —

中学生



西東京市図書館

★ 「牛をかぶったカメラマン」 ★

レベッカ・ボンド 作 福本友美子 訳／光村教育図書

おかし、ヨークシャーの農家に、リチャードとチェリーという2人の男の子がいました。毎日、鳥の巣やクモの巣など、2人はいろいろなものをじっくりゆっくりにながめてすごしました。

おとなになった2人は、ロンドンへはたらきにでましたが、ふるさとの野山がなつかしくてたまりません。



♠ 「優しい音」 ♠

三輪裕子 作 せきねゆき 絵／小峰書店

中学3年生になったころから仲間はずれにされている千波のもとに、「潮風」と名乗る誰かからメールが届くようになった。ただ一人の話し相手に「あなたは誰？」と送っても「今はいいたくない。チャンスがあったらいうよ」と返事が来るだけ。でも、千波の悩みを知っているようだった。携帯の優しい音にはげまされて、千波は無事卒業式を迎える。



◎ 「スウィング！」 ◎

横沢彰 作 五十嵐大介 絵／童心社

春の陽射しがまぶしい。四ヶ月ぶりのグラウンド練習だ。直たちの学校は、冬場は雪でおおわれる。念願のグラウンド練習、でも直は練習の最中、ふと、とうさんのことを思ってしまう。去年の二月、とうさんは亡くなった。そのとうさんの大事にしていた田んぼを、かあさんはやめることに決めた。直は、作業小屋でとうさんの耕うん機のエンジンをかけてみる。



□「ウィッシュー願いをかなえよう!ー」□

フェリーチェ・アリーナ 作 横山和江 訳／講談社

セブはダウン症^{しょうじょう}の男の子。離婚^{りこん}して牧場を一人で経営^{けい}している母^{えい}さんがガンにかかっていることがわかった。セブは誰にも言わずに願いをかけた。両手の親指と人差し指をくっつけてできた三角形の中に飛んでいる飛行機を入れて、つかまえるようにパチンとたたく。百機の飛行機をたたけたら、願いがかなうという。セブの願いはかなうのだろうか。



●「魔法の泉への道」●

リンダ・スー・パーク 著 金利光 訳／あすなる書房

2008年のスーダン南部、家族のための水くみで1日が終わってしまう少女ナーヤ。そして1985年のスーダン南部、内戦で故郷を追われ、家族とも離れ離れになってしまった少年サルヴァ。交互に語られる、ナーヤとサルヴァの物語。一見、無関係で交わらないはずの二人の人生だったが…。スーダン内戦の実話をもとにした物語。



◆「風の海峡 上・波頭をこえて 下・戦いの果てに」◆

吉橋通夫 著／講談社

かけはしんご
梯進吾は、日本と朝鮮との貿易を仕事としている父・七太夫^{しちだゆう}といっしょに、対馬^{つしま}と釜山^{プサン}を行き来して暮らしている。釜山では、親友の季俊民^{リジュンミン}とその妹勢雅^{セア}に迎えられ、朝鮮語や朝鮮の武道・音楽を教わっていた。

ところが、太閤秀吉^{たいこうひでよし}の朝鮮出陣命令^{ちようせんしゆつじん}により、日本と朝鮮との戦争がはじまる。朝鮮語を話せる進吾は、通訳としてこの戦争にかかわっていくことになる。



☆「鷹のように帆をあげて」☆

まはら三桃 著 講談社

中1の理央^{りお}は、ペットショップのタカが気になり毎日通っているうちにタカも理央を覚えているようになった。とうとうタカを飼うことを許してもらった理央はタカの訓練^{はるか}を始めた。親友の遙が交通事故で亡くなってから心を閉ざし、遙のくれた片方の手袋ははずさない理央と、ずっとペットショップにいたため飛べないタカ。理央は鷹匠^{たかしょう}になれるのだろうか。



■「オン・ザ・ライン」■

朽木祥 著／小学館

体育会系だが隠れ活字中毒^{かん}の少年侃^{かん}は、高校入学後、親友である貴之^{たかゆき}に誘われて、硬式庭球部に入った。今までラケットをさわったこともなかったのに、毎日寝ても覚めてもテニス漬け。明るく楽しい脳天気な高校生活がいつまでも続くことが、当たり前のように思えたのだが…。突然取りかえしのつかない交通事故が起こった。二人の絆の深さがうかがえるお話。



♥「奈良・京都の古寺めぐり - 仏像の見かた -」♥

水野敬三郎 著／岩波書店

奈良・京都の古寺をめぐると、数多くの仏像に出会います。法隆寺や興福寺、東大寺、平等院などの古寺を訪れ、飛鳥時代から鎌倉時代の代表的な仏像を写真と図版で説明しながら、見る楽しさを紹介。

実は仏像を理解するうえで、もっとも基本的なのはその形です。この種類の像はこのような姿を取るのだという約束、いわゆる、決められた形があるのです。

